

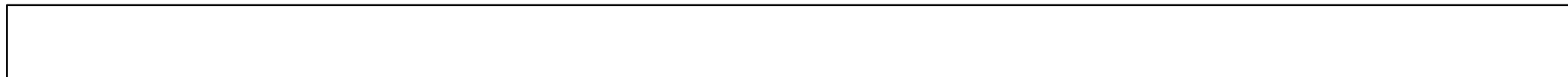
全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年11月6日

予報期間：11月8日～12月7日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項



出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。

北・東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

東・西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	30:40:30	40:40:20 40:30:30	20:40:40 20:30:50	
東日本	日本海側 太平洋側	20:40:40	50:30:20 40:40:20	10:30:60 20:30:50	
西日本	日本海側 太平洋側	20:30:50	50:30:20 40:40:20	10:30:60 20:30:50	
沖縄・奄美		10:30:60	20:30:50	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	60:30:10	20:40:40	20:40:40
東日本	30:50:20	20:40:40	20:30:50
西日本	20:50:30	10:30:60	20:30:50
沖縄・奄美	10:20:70	10:30:60	20:40:40

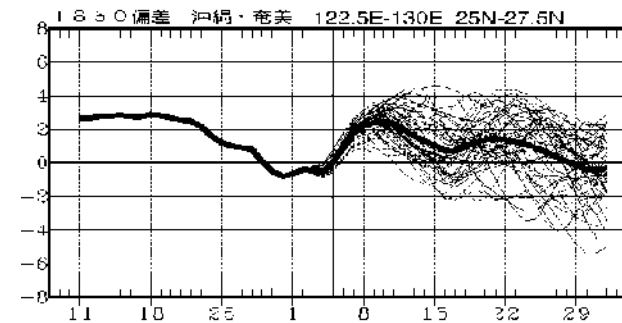
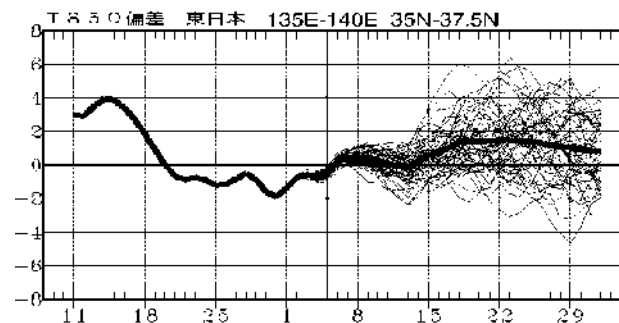
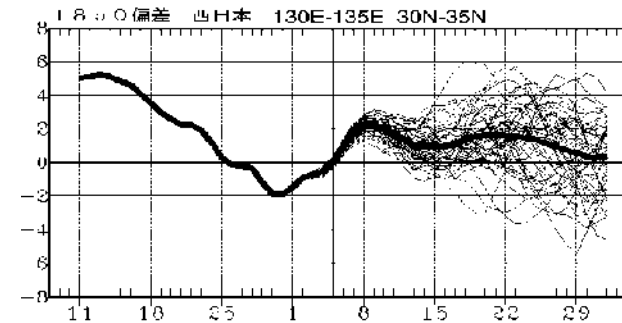
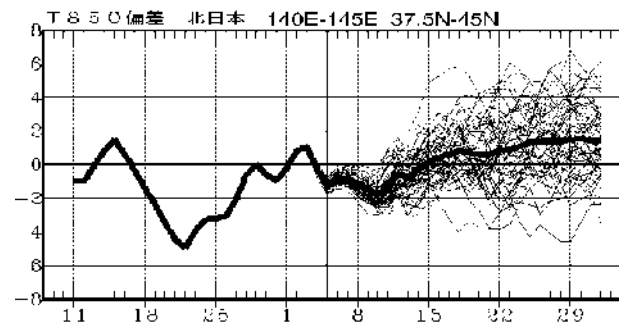
全般1か月予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、西日本、沖縄・奄美では高く、東日本では平年並か高いでしょう。
- ・高気圧に覆われやすく、寒気の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は、東・西日本日本海側では少なく、北日本日本海側、東・西日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、北日本太平洋側、東・西日本では多く、北日本日本海側では平年並か多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、期間のはじめを中心に湿った空気の影響を受けやすい時期があり、向こう1か月の降水量は多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(11/8～11/14)	2週目(11/15～11/21)	3～4週目(11/22～12/5)
想定される天候(気温)	北日本では低いでしょう。東・西日本では平年並でしょう。沖縄・奄美では高いでしょう。	北・東日本では平年並か高く、西日本、沖縄・奄美では高いでしょう。	北日本、沖縄・奄美では平年並か高く、東・西日本では高いでしょう。
根拠	北日本中心に大陸からの寒気が南下する。沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすい。(P.12, P.13参照)	北・東・西日本は、大陸からの寒気の南下が弱く、移動性の高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れる日が多い。(P.12, P.13参照)	冬型の気圧配置が現れにくく、寒気の南下が弱い。東・西日本中心に移動性の高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れる日が多い。(P.12, P.13参照)

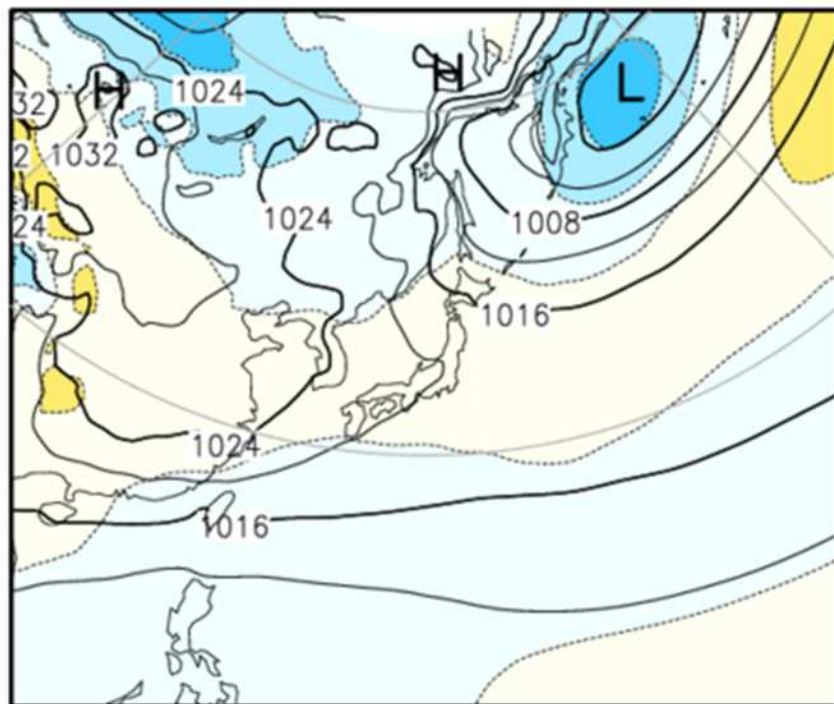
850hPa気温 偏差時系列



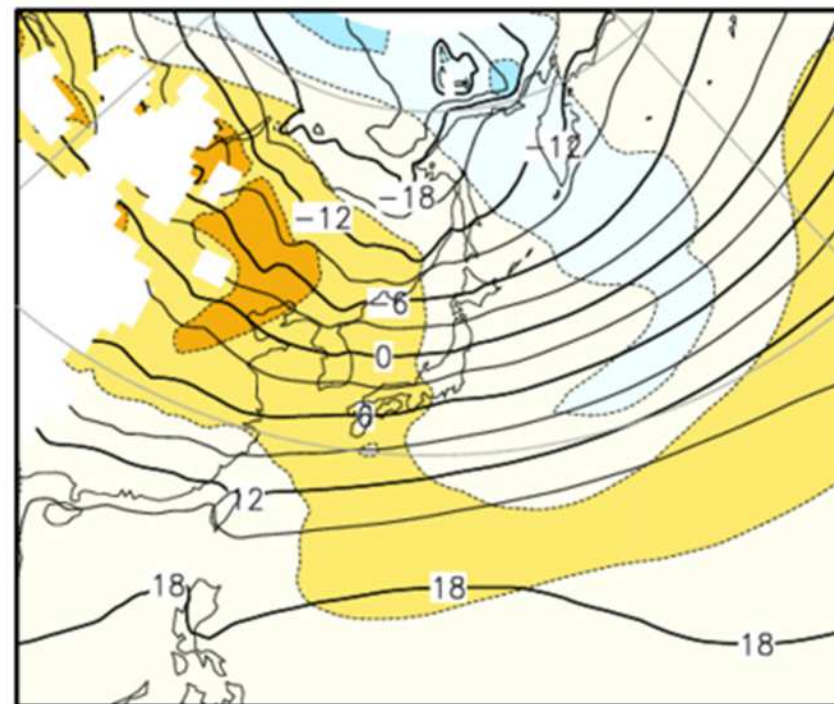
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(11/8～11/14)	2週目(11/15～11/21)	3～4週目(11/22～12/5)
想定される 天候 (天気)	北日本日本海側では、寒気の影響で、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。 北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、湿った空気の影響により、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	北日本日本海側では、寒気の影響を受けにくく、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。 北・東日本太平洋側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 東・西日本日本海側では、高気圧に覆われやすく、寒気の影響を受けにくいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。 西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	北日本日本海側では、寒気の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。 北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東・西日本日本海側では、高気圧に覆われやすく、寒気の影響を受けにくいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。 東日本太平洋側では、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
根拠	低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるが、北日本は寒気の影響を受けやすい。沖縄・奄美は、湿った空気の影響を受けやすく、台風第26号の影響も受ける可能性がある。(P.10-P.13参照)	北・東・西日本は、大陸からの寒気の南下が弱く、移動性の高気圧に覆われやすい。(P.10-P.13参照)	冬型の気圧配置が現れにくく、寒気の南下が弱い。東・西日本中心に移動性の高気圧に覆われやすい。(P.10-P.13参照)

海面気圧(1か月)



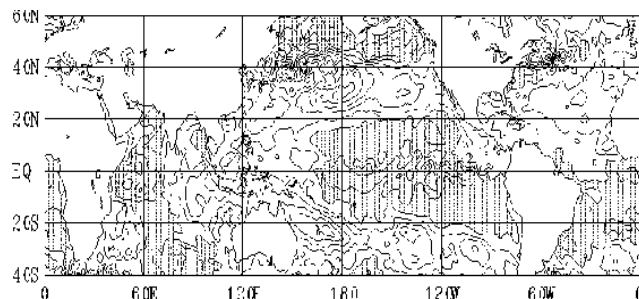
上空約1500mの気温(1か月)



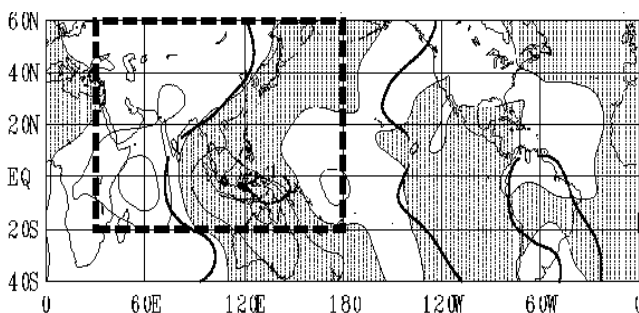
1か月平均の海面気圧(左図)は、シベリア付近で気圧が平年より低く、シベリア高気圧が弱いため、日本付近は冬型の気圧配置になりにくいと予測されています。北・東・西日本では気圧が平年より高く、高気圧に覆われやすいでしょう。沖縄・奄美では平年より気圧が低く、期間のはじめを中心に湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。上空約1500mの気温(右図)は、大陸からの寒気の南下が弱く、西日本から沖縄・奄美を中心に平年より高く予測されています。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

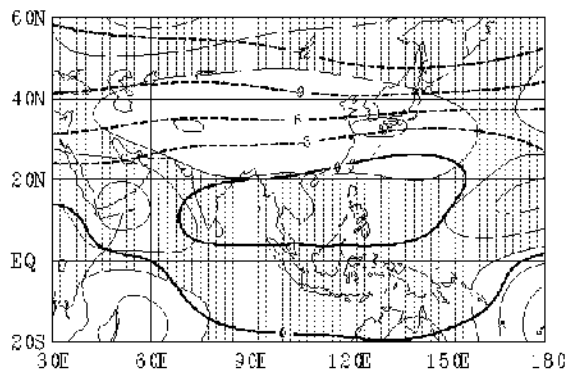
SST偏差



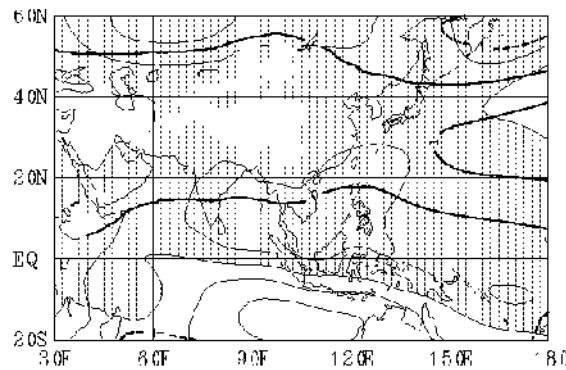
200hPa速度ポテンシャル



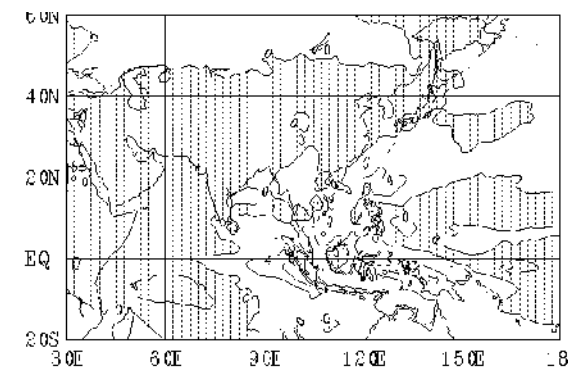
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、日本近海で正偏差。

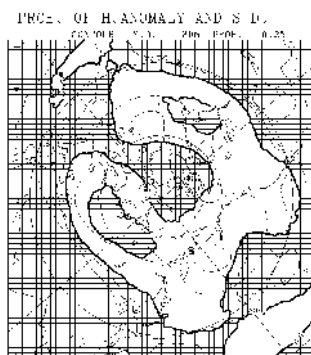
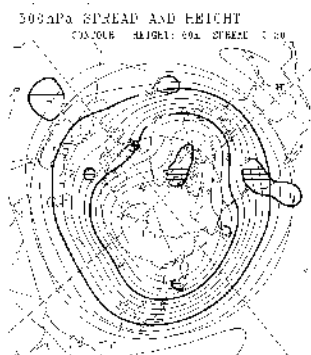
200hPa速度ポテンシャルは、インドネシア付近を中心に発散偏差、アフリカからインド洋西部にかけて収束偏差。SSTと熱帯季節内変動の影響。

200hPa流線関数は、アラビア半島付近で低気圧性循環偏差、中央アジア南部を中心に高気圧性循環偏差で熱帯の対流活動の影響。また、日本付近を中心に高気圧性循環偏差で、熱帯の対流活動に加え、ロスビー波束伝播の影響も。

850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に関連し、アラビア海から南西諸島にかけて低気圧性循環偏差、日本の東海上で高気圧性循環偏差で、沖縄・奄美で暖かく湿った空気が流れ込みやすい時期がある。

降水量は、インド洋東部の赤道域から東南アジアの広い範囲で多雨偏差。フィリピン東方海上でも多い。日本付近は少雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

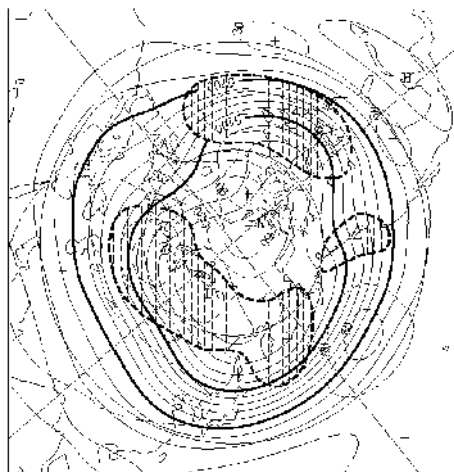


500hPa高度は、大西洋から西シベリアにかけて波列状の偏差パターンが卓越し、中央シベリアから西シベリアでトラフとなり負偏差。極東域では、中緯度帯は広く正偏差。日本の西で相対的に正偏差が大きく、日本付近は弱い東谷傾向(1週目中心)。東日本以西は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

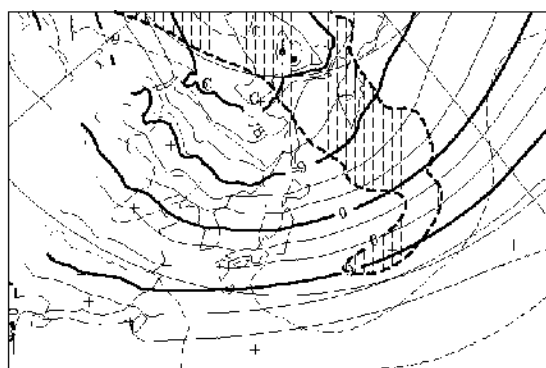
850hPa気温は、中緯度帯は大陸から日本付近にかけて広く正偏差。日本の東海上では負偏差が見られる。

海面気圧は、中央シベリアから西シベリアでトラフとなっていることに対応して、シベリア高気圧が弱く、日本付近は冬型の気圧配置になりにくい。北・東・西日本では気圧が平年より高く、高気圧に覆われやすい。沖縄・奄美では、気圧が平年より低く、湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

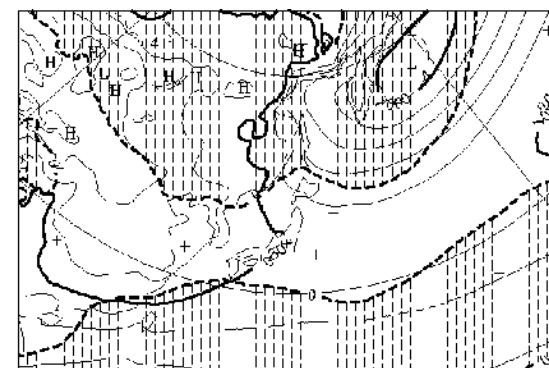
500hPa高度



850hPa気温

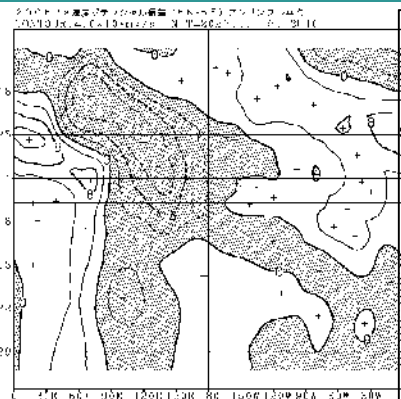


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



200hPa速度ポテンシャルは、1週目から2週目にかけて、熱帯季節内変動に伴う発散偏差域が太平洋から大西洋に東進するが、インドネシア付近では発散偏差(対流活発な状態)が続く。インドネシア付近では2週目から3週目にやや活発化する予想。一方、インド洋西部では対流不活発な状態が続く。これが、後述するユーラシア大陸の亜熱帯ジェット気流沿いへのロスビー波束伝播に伴う波列パターンの形成に寄与している。

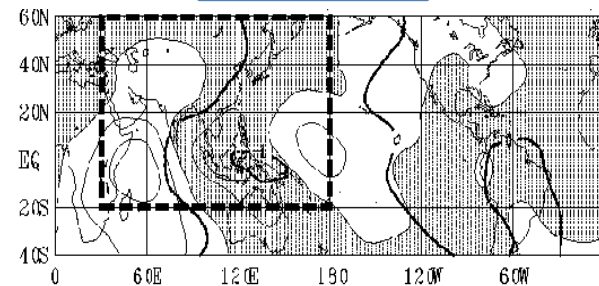
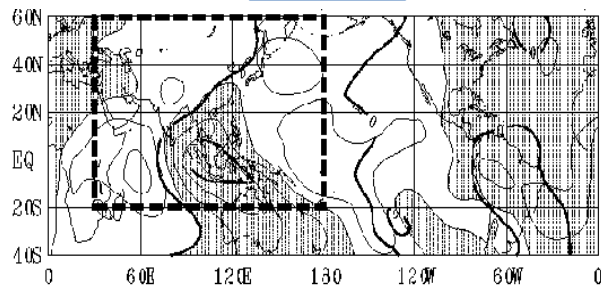
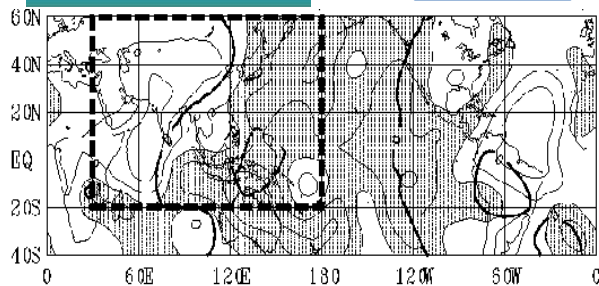
降水量は、1週目はフィリピン東方海上から日本の南で強い多雨偏差。熱帯じょう乱の北上に対応。2週目には、南シナ海からインド洋東部に多雨偏差が広がる。3～4週目は、ベンガル湾でも多雨偏差となる。これらの変動は、夏季に卓越する熱帯季節内変動の特徴が残っているとみえる。インド洋赤道域東部は期間を通して、多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

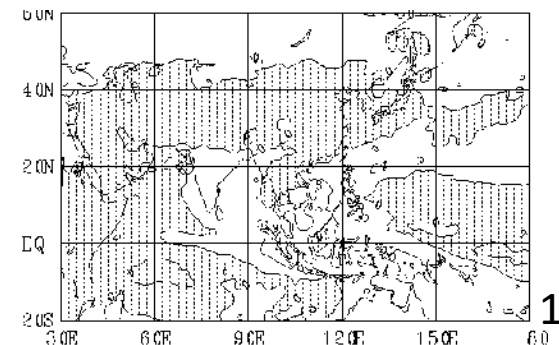
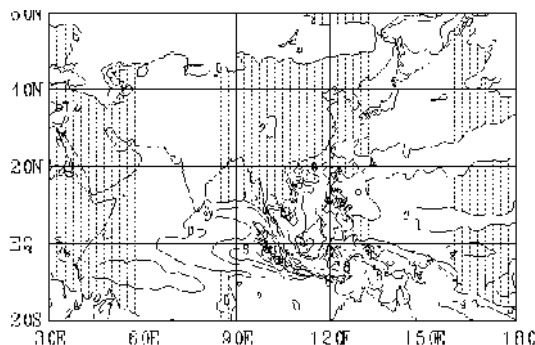
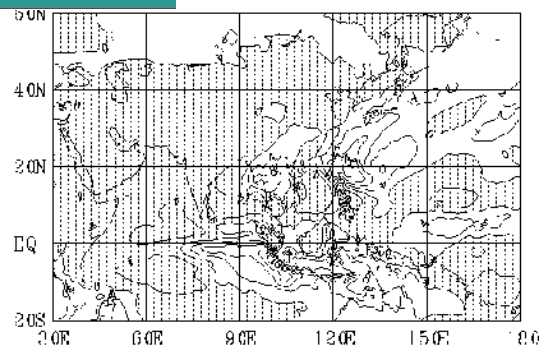
1週目

2週目

3～4週目



降水量



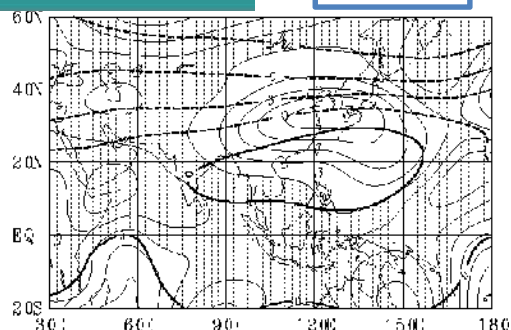
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1週目は亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播やフィリピン東方海上の活発な対流活動の影響により、華中から日本付近で高気圧性循環偏差。2週目は、インド洋西部の不活発な対流活動に対応して、アラビア半島で低気圧性循環偏差、そこから日本付近にかけて波列状の偏差パターンが卓越。3～4週目もインド洋の対流活動に対応して、アラビア半島で低気圧性循環偏差、インド北部で広く高気圧性循環偏差、その下流側の日本付近は低気圧性循環偏差となる。

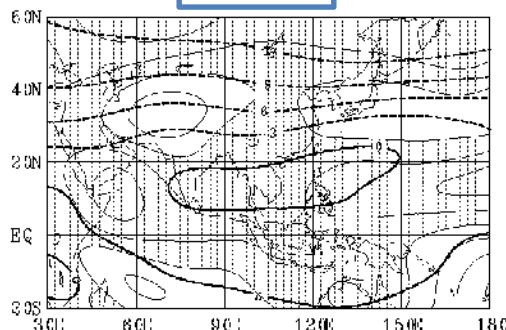
850hPa流線関数は、期間を通して、インドネシア付近の対流活動に対応して、インド洋東部からフィリピン付近にかけて低気圧性循環偏差。1週目はフィリピンの北東海上で熱帯じょう乱に対応する低気圧性循環偏差が明瞭。2週目は日本付近では高気圧性循環偏差。3～4週目は北日本のはるか東海上で高気圧性循環偏差で、北日本太平洋側では平年程度に湿った空気の影響を受ける。

200hPa流線関数

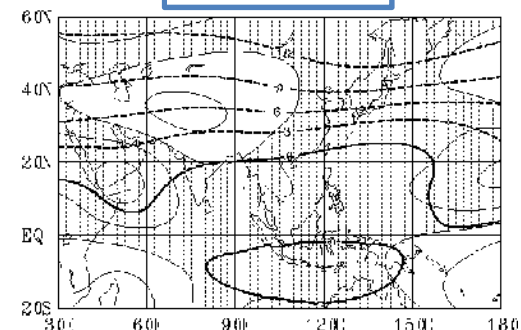
1週目



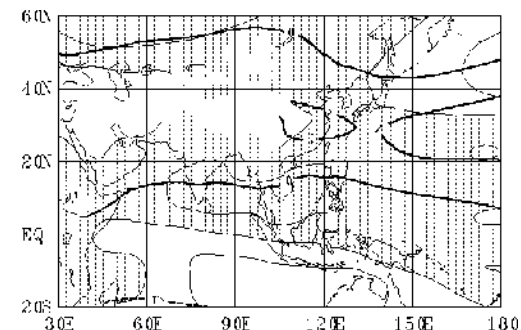
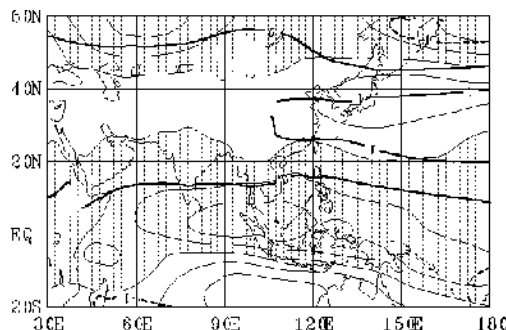
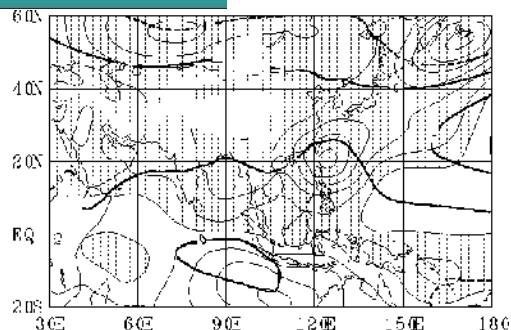
2週目



3～4週目



850hPa流線関数



予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

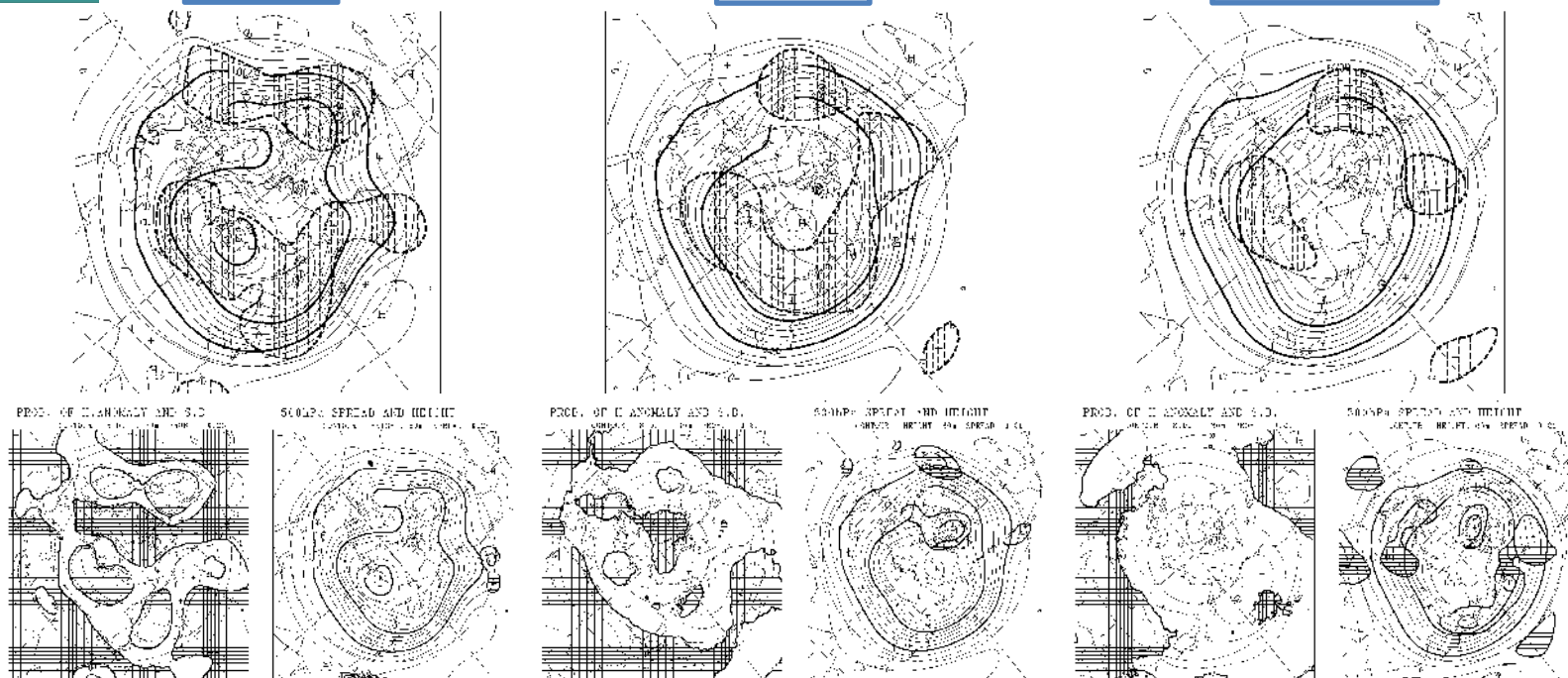
500hPa高度は、1週目はフィリピン付近の対流活動及び亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響により、東日本以西では正偏差、日本の東海上ではトラフとなり、北日本は負偏差で、東谷。2週目は寒帯前線ジェット気流及び亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播により、日本付近で、正偏差が強まる。3～4週目には、日本付近は中緯度帯の帯状の正偏差域に覆われるが、日本の北やシベリア高気圧の発達に関係する西シベリア付近でスプレッドが大きく、正の高偏差確率も小さく、不確実性が高いこと、南シナ海などの対流活動活発化が偏西風に与える影響(日本付近で南に蛇行しやすくなる)も考慮し、日本付近の高温確率をガイダンスより若干下げる。

500hPa高度

1週目

2週目

3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は北・東日本は負偏差、西日本から沖縄・奄美では正偏差に覆われる。2週目には大陸から日本付近にかけて広く正偏差となる。3～4週目も、引き続き、日本付近は、中緯度帯での帯状の正偏差域に覆われる。

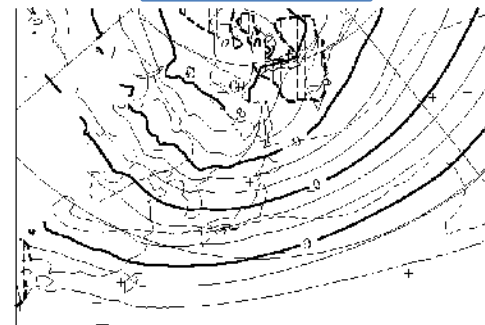
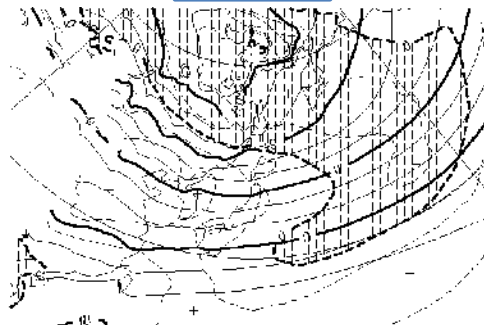
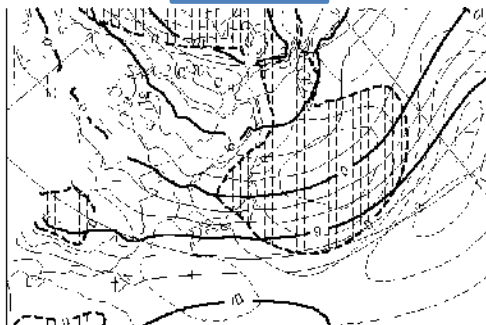
海面気圧は、1週目は、カムチャツカ半島の東で低気圧が発達し、後面の寒気が北日本に影響する。沖縄の南東海上で台風第26号に対応する負偏差が明瞭で、沖縄・奄美は湿った空気の影響を受けやすく、台風第26号の影響を受ける可能性がある。2週目は、大陸から日本の東海上にかけて帯状の高圧部となり、北・東・西日本で高気圧に覆われやすい。3～4週目はシベリア高気圧、東海上の低気圧ともに弱く、冬型の気圧配置が現れにくい。東・西日本中心に気圧が高く、高気圧に覆われやすい。

1週目

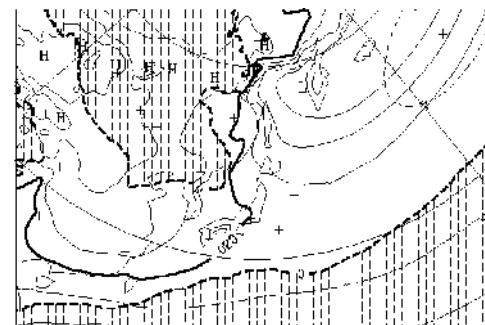
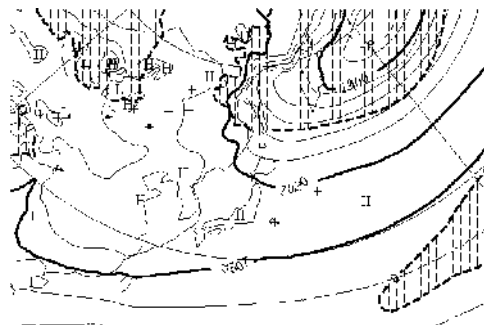
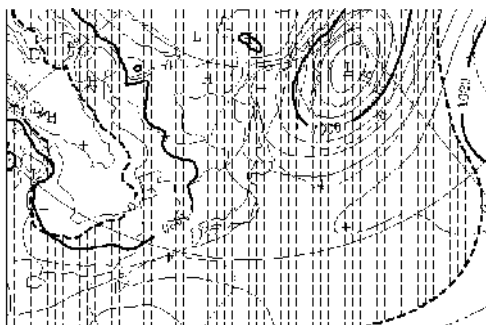
2週目

3～4週目

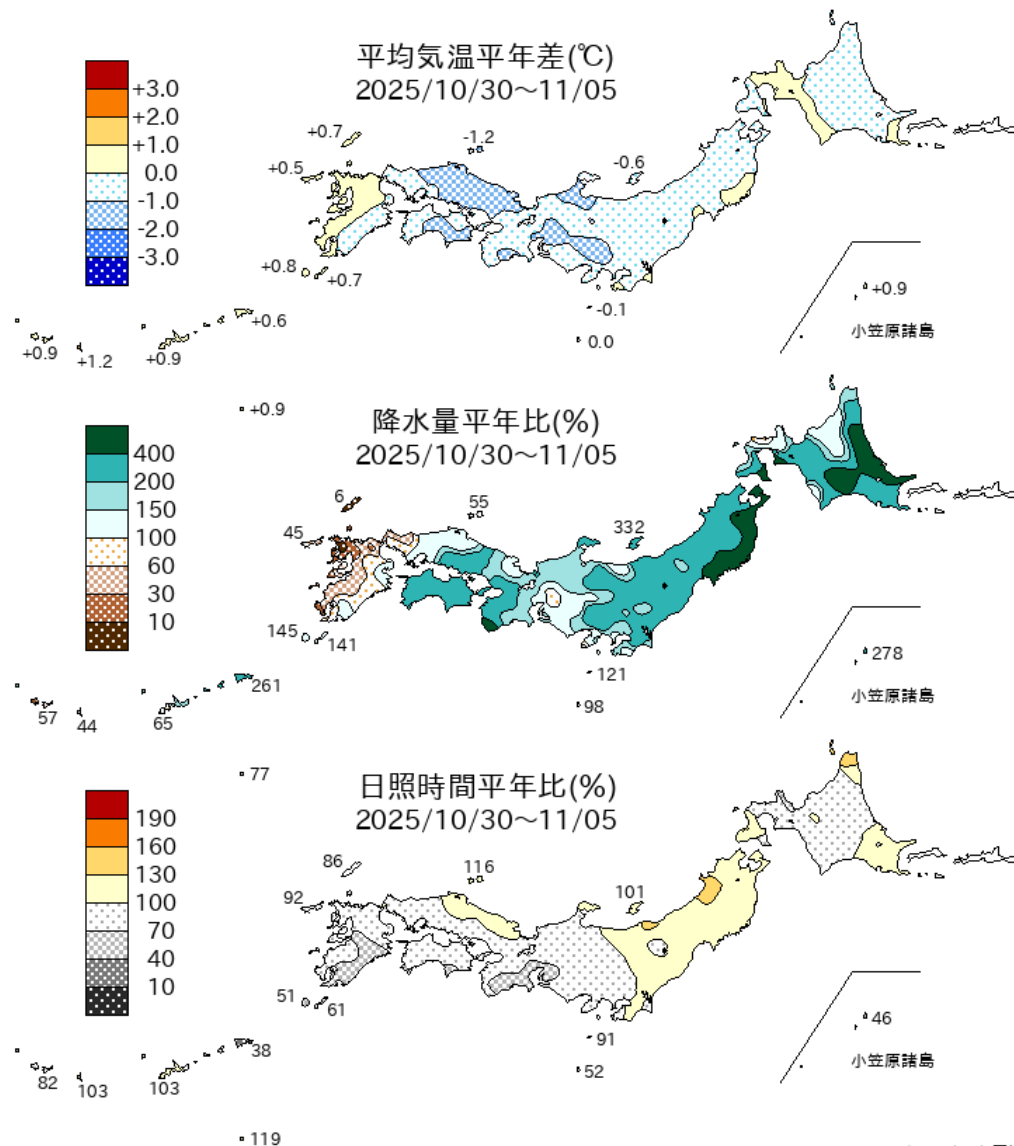
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(10月30日～11月5日)は、31日から1日にかけて低気圧が急速に発達しながら本州付近を通過したため、大雨となった所があったほか、北日本では大荒れとなった所がありました。2日に気圧の谷が通過したあと、3日には一時的に冬型の気圧配置となりました。4日から5日にかけては北日本中心に移動性の高気圧に覆われましたが、東・西日本や沖縄・奄美では湿った空気の影響で、曇りや雨となりました。降水量は、九州や沖縄地方を除き、平年を上回り、特に北日本の一部で平年の4倍を超えました。日照時間は、高気圧に覆われやすかった北日本を中心に平年を上回り、寒気の影響を受けた北海道日本海側や湿った空気の影響を受けた東・西日本から沖縄・奄美で平年を下回った所が多くなりました。気温は、3日以降、寒気の影響を受けやすかった北・東・西日本で平年を下回り、暖かい空気に覆われやすかった沖縄・奄美で平年を上回りました。